

令和6年度指標に対する実績評価

指標の目標年度 令和8年度

評価期間 令和6年度～令和8年度

1 市民サービスに必要な資料を確保し、提供することに関する指標（9項目）

No.	目 標 指 標	参考実績値			目標値	令和6年度実績値	達成度	目標値の設定理由
		令和3年度	令和4年度	令和5年度				
1-1	所蔵資料点数	483,263点	486,240点	492,183点	490,000点	501,905点	102.4%	所蔵資料の収容スペースが限界に近いため、現状の実績値を維持することを目標とする。
指標の説明	中央図書館(自動車図書館を含む)、分室(※1)、閲覧所(※2)等で所蔵する資料(視聴覚資料・雑誌を含む)の点数。電子書籍は除く。							
評価	令和5年10月から研究学園小学校図書室、令和6年10月からみどりの南小学校図書室の地域開放事業を開始したため、資料点数が増加した(約4千点)。また、中央図書館、移動図書館、一部の分室(谷田部、小野川交流センター図書室)等で所蔵資料点数が微増し、目標達成に至っている。所蔵スペースは限界に近いため、今後も受入及び除籍により書架の充実を図っていく。							
1-2	受入資料点数	24,386点	24,020点	26,600点	28,000点	31,920点	114.0%	蔵書の入替えにより、書架の質を向上させる。中央図書館では年間約15,000冊を除籍している。
指標の説明	中央図書館(自動車図書館を含む)、分室、学校図書室等で受入した資料の点数(視聴覚資料・雑誌を含む)。電子書籍は除く。							
評価	令和5年10月から研究学園小学校図書室、令和6年10月からみどりの南小学校図書室の一般開放事業を開始したため、受入資料点数が増加した(約4千点)。また、中央図書館、移動図書館で受入点数が増加しており、目標達成に至っている。所蔵スペースは限界に近いため、今後も受入及び除籍により書架の充実を図っていく。							
1-3	個人貸出点数	1,376,860点	1,481,648点	1,498,017点	1,550,000点	1,451,468点	93.6%	利用者の多様な要求に応えるよう努め、貸出の増を図り、図書館サービスの充実を目指す。令和元年度から令和4年度の増加点数(約53,000点)を考慮し、令和5年度の実績値から算出した。サービスポイントの新設や人口増から、今後も増加が見込まれる。
	(参考) 電子書籍分を加算した貸出点数	1,376,860点	1,488,234点	1,511,181点	-	1,497,925点	-	
指標の説明	中央図書館(自動車図書館・配本所を含む)、分室、閲覧所等で個人へ貸出した資料の点数(視聴覚資料・雑誌を含む)。電子書籍及び団体貸出は除く。							
評価	令和6年度は、令和5年度と比較して約4.6万点減少している。特に中央図書館と移動図書館の減少幅が大きく、中央図書館は約4.3万点、移動図書館は約9千点減少した。中央図書館では、令和6年7月から翌年3月にかけて、建物の外壁工事に伴い大きな工事音が発生した期間があったことが影響した可能性がある。移動図書館に関しては、夏季休業期間及び熱中症警戒アラート発生時の運休による影響が考えられる。筑波交流センター図書室でも7千点以上減少しており、年度当初から6月末にかけて工事に伴う休室期間のあったことが要因として考えられる。 また、電子図書館を特に利用している0～12歳、30代の年代で大きく貸出点数が減少しており、電子図書館の利用増との関連性も注視していく必要がある。							
1-4	視聴覚資料貸出点数	51,962点	52,270点	50,195点	70,000点	46,651点	66.6%	近年動画・音楽配信サービス等の普及が進んだためか、著しく減少している。新型コロナウイルス感染症流行前の水準(約70,000点)に戻すことを目標とする。令和7年1月から貸出期間が1週間から2週間に変更になるため、その影響を注視していく。
指標の説明	CD・DVD・VHSビデオ等の視聴覚資料の貸出点数							
評価	令和6年度は、令和5年度と比較して約3千点減少している。令和7年1月から視聴覚資料の貸出期間が2週間に変更されたが、このことによる影響は不明である。減少の要因としては、1-3個人貸出点数の減少が影響している可能性がある。また、動画配信サービスが普及したことによるニーズの変化も考えられる。引き続き展示などを通してより多くの利用者に利用してもらえるよう取り組んでいく。							
1-5	市民一人当たりの貸出点数	5.6点	5.9点	5.9点	6.0点	5.6点	93.3%	人口20～30万人都市の平均値5.06点(「日本の図書館2022」)を考慮し、現状維持の上、やや増加させるものとして目標値を設定した。
指標の説明	中央図書館(自動車図書館・本庁舎コミュニティ棟・かとりだい交流館を含む)、分室、閲覧所等で個人へ貸出した資料の点数(1-3個人貸出点数)を9月1日現在の常住人口で除して算出した、市民一人当たりの貸出点数							
評価	令和6年度は、令和5年度と比較して常住人口が増加し(令和5年度から約4千人増加)、1-3個人貸出点数が減少した結果、一人当たりの貸出点数が減少している。所蔵資料が有効に活用されるよう、サービスを充実させていく。							

※1「分室」: 中央図書館とシステム上連携している谷田部・筑波・小野川・荻崎交流センター図書室

※2「閲覧所」: 地域に開放し図書館サービスの提供を行う研究学園小学校図書室・みどりの南小学校図書室

令和6年度指標に対する実績評価

No.	目 標 指 標	参考実績値			目標値	令和6年度 実績値	達成度	目標値の設定理由
		令和3年度	令和4年度	令和5年度				
1-6	電子図書館への アクセス件数	-	21,296件	31,836件	240,000件	173,169件	72.2%	令和6年6月に市内児童生徒約23,000人に対して電子図書館用のIDパスワードを配布したため、著しく増加することが見込まれる。令和6年9月～11月の平均は約17,000件/月。20,000件×12か月を目標とする。
指標の 説明	電子図書館へのアクセス件数(学校利用を含む)							
評価	令和6年6月から開始した電子図書館の学校利用促進事業により、電子図書館の利用が飛躍的に増加した(5月:2,969件、6月:23,218件)。夏季休業期間の後、毎月約1.5万件で安定している。引き続き学校との連携に努め、未利用者へのPRを行っていく。							
1-7	電子書籍資料 所蔵点数 (閲覧可能点数)	-	1,468点	3,553点	5,000点	4,864点	97.3%	中央図書館における所蔵資料の収容スペースに限界があるため、電子書籍の充実を図ることで図書館サービスの充実を目指す。また、非来館型サービスを提供することにより利用者の利便性の向上を図る。
指標の 説明	電子図書館で閲覧可能な電子書籍の点数(年度末時点での有効点数)							
評価	令和6年6月から開始した電子図書館の学校利用促進事業に伴い、コンテンツを増やした結果、令和5年度の約1.4倍の所蔵点数とすることができた。今後も閲覧可能なコンテンツ数を保ち、電子図書館の利用を定着させていく。							
1-8	電子書籍資料 貸出点数	-	6,586点	13,164点	60,000点	46,457点	77.4%	令和6年6月に市内児童生徒約23,000人に対して電子図書館用のIDパスワードを配布したため、著しく増加することが見込まれる。令和6年9月～11月の平均は、約4,500点/月。5,000点×12か月を目標とする。
指標の 説明	電子書籍の貸出点数(学校利用を含む)							
評価	令和6年6月から開始した電子図書館の学校利用促進事業により、電子図書館の利用が飛躍的に増加した(5月:1,449点、6月:4,666点)。夏季休業期間の後毎月4,000点以上の貸出があることから、学校利用促進事業をきっかけとして、電子図書館の利用が定着しつつあると思われる。引き続き学校との連携に努め、未利用者へのPRを行っていく。							
1-9	電子書籍資料 閲覧点数	-	16,600点	32,033点	420,000点	292,861点	69.7%	令和6年6月に市内児童生徒約23,000人に対して電子図書館用のIDパスワードを配布したため、著しく増加することが見込まれる。令和6年9月～11月の平均は、約29,000点/月。35,000点×12か月を目標とする。
指標の 説明	電子書籍の閲覧点数(学校利用を含む)							
評価	令和6年6月から開始した電子図書館の学校利用促進事業により、電子図書館の利用が飛躍的に増加した(5月:3,187点、6月:41,241点)。夏季休業期間の後毎月25,000点前後の閲覧数があり、学校利用促進事業をきっかけとして、電子図書館の利用が定着しつつあると思われる。引き続き学校との連携に努め、未利用者へのPRを行っていく。							

2 市全体へのサービスに関する指標 (8項目)

No.	目 標 指 標	参考実績値			目標値	令和6年度 実績値	達成度	目標値の設定理由
		令和3年度	令和4年度	令和5年度				
2-1	来館者数	435,851人	478,875人	455,178人	500,000人	554,215人	110.8%	新型コロナウイルス感染症流行前の実績(令和元年度:約560,000人)を考慮し、増加させることを目標とする。一方、サービスポイントが増加したことに伴い、利用が中央図書館以外に分散することが考えられる。
指標の 説明	中央図書館に来館した延人数							
評価	目標を達成しており、新型コロナウイルス感染症流行前(令和元年度:約56万人)に迫る勢いである。令和6年2月に視聴覚コーナーの一部を改修し、電源付きの閲覧席を増設したことによる影響も考えられる。(令和5年度は、入館者カウンター機器の故障により、46日間計測不可であった時期がある。)							

令和6年度指標に対する実績評価

No.	目 標 指 標	参考実績値			目標値	令和6年度 実績値	達成度	目標値の設定理由
		令和3年度	令和4年度	令和5年度				
2-2	図書館利用カード 実利用者数	28,342人	30,326人	31,111人	35,000人	30,891人	88.3%	平成30年度以降、30,000人前後で推移している。市民の図書館利用促進に努める。
指標の 説明	1年間に図書館利用カードを利用して資料を借りた人数(1人の人が複数回利用した場合は1人と計算。団体貸出を除く)							
評価	年々増加傾向にあったが、令和6年度は令和5年度の実績を下回った。利用しやすい図書館運営に努めるとともに、図書館の新規・継続利用につなげるイベント等を企画し、多くの市民の図書館活用の促進を図っていききたい。							
2-3	新規登録者数	5,896人	6,820人	6,826人	7,000人	6,467人	92.4%	毎年度6,000人前後で推移している。転入者や図書館未利用者等に対するPRIに努め、図書館利用者を増加させていく。
指標の 説明	新たに図書館利用カードを作成した人数							
評価	令和6年度は令和5年度を下回ったものの、近年6,500人前後で推移している。近年、サービスポイントの増設、広域利用(他自治体との連携)、電子図書館サービスの開始など、図書館サービスを利用しやすい環境づくりに取り組んでいる。市人口が増加していることも踏まえ、更なる新規利用者の獲得に向けてPRIに努めていく。							
2-4	所蔵館以外への 返却冊数	151,107冊	159,776冊	167,733冊	185,000冊	162,264冊	87.7%	サービスポイントや自動車図書館ステーションの増設に伴い、増加傾向にある。令和5年度実績値の約1割増を目標値とする。
指標の 説明	所蔵館(中央図書館、自動車図書館、分室、学校図書室)以外に返却された図書資料の冊数							
評価	令和6年度は令和5年度を下回ったものの、個人貸出の約1割が所蔵館(本籍館)以外に返却されており、サービスポイントがある程度活用されていると評価できる。広大なつくば市において、資料を気軽に貸出・返却できるよう、引き続き利便性の向上を図っていく。							
2-5	ブックポストへの 返却冊数	29,850冊	37,112冊	58,500冊	65,000冊	70,948冊	109.2%	サービスポイントや自動車図書館ステーションの増設に伴い、増加傾向にある。令和5年度実績値の約1割増を目標値とする。
指標の 説明	各ブックポストに返却された図書資料の冊数							
評価	目標を達成しており、ブックポストへの返却が予想を超えて増加している。近年新設した、かとりだい交流館(令和5年6月)及びみどりのプール(令和6年10月)の他、市庁舎コミュニティ棟への返却が特に増加している。つくばエクスプレス沿線地区及び研究学園地区に居住する市民の利用が増加していると考えられる。							
2-6	予約件数	167,352件	180,325件	208,444件	230,000件	219,813点	95.6%	平成30年度から4交流センター図書室の在架資料が予約できるようになり、大きく増加した。近年は図書館ホームページからの予約等、インターネットサービス全般の利用が拡大傾向にある。サービスポイントの増設によりさらに増加することが見込まれる。
指標の 説明	中央図書館、自動車図書館、分室及びホームページからの予約受付件数							
評価	予約件数は年々増加している。近年増設された配本所(市庁舎コミュニティ棟・かとりだい交流館予約本受取窓口)や閲覧所(研究学園・みどりの南小学校図書室)などへの取り寄せが増加したことが要因として考えられる。一方で、借りたい資料がその場になく、予約をしないと借りることができないという利用者の声もあるため(図書館利用者満足度調査など)、予約件数の増加を好意的に捉えて良いか否かは議論の余地がある。							
2-7	図書館ホームページ へのアクセス件数	445,989件	580,449件	825,729件	900,000件	899,478件	99.9%	令和5年度実績値の約1割増を目標値とする。令和4年度以降、インターネットサービスの利用拡大と電子図書館サービス(令和4年10月開始)の影響を受け、急速に増加している。
指標の 説明	図書館ホームページへのアクセス件数							
評価	近年急速に増加しており、早くも目標を達成しつつある。令和6年6月に電子図書館の学校利用促進事業が開始されたことに伴い、ホームページへのアクセスも増加していると考えられる。また、令和7年7月に図書館ホームページのリニューアルを行ったため、ホームページがさらに活用されることが期待される。							

令和6年度指標に対する実績評価

No.	目 標 指 標	参考実績値			目標値	令和6年度 実績値	達成度	目標値の設定理由
		令和3年度	令和4年度	令和5年度				
2-8	図書館情報紙の発行回数	8回	7回	18回	10回	10回	100.0%	「ヨモッカ」「こどもヨモッカ」(年2回)、「としよかんの本」(年4回)、パスファインダー(不定期、年2回程度)を発行・改訂することにより、図書館や資料に対する市民の理解と関心を高める。
指標の説明	市民向けの図書館情報紙(「ヨモッカ」「こどもヨモッカ」「としよかんの本」「パスファインダー」等)の発行回数							
評価	令和6年度は、図書館情報紙「ヨモッカ」を2回、「こどもヨモッカ」を2回、所蔵資料の紹介紙「としよかんの本」を4回、テーマ別に資料の調べ方や参考資料を紹介する情報紙・パスファインダーを2回発行した。引き続き、市民に親しまれる情報紙を定期的に発行し、図書館の利用促進を図る。							

3 高齢者、障害のある方及び外国の方へのサービスに関する指標 (5項目)

No.	目 標 指 標	参考実績値			目標値	令和6年度 実績値	達成度	目標値の設定理由
		令和3年度	令和4年度	令和5年度				
3-1	大活字本の所蔵冊数	2,784冊	2,797冊	2,845冊	3,000冊	2,808冊	93.6%	令和5年度の目標値を継続する。徐々に増加傾向にあるが、資料の収蔵スペースが限界に近い。大活字本の計画的な蔵書管理に努め、高齢の方や利用に障害のある方への図書館サービスの充実を目指す。
指標の説明	大活字本の所蔵冊数							
評価	徐々に増加傾向にあったが、令和6年度は令和5年度と比べ、やや減少した。資料の所蔵スペースには限界があるため、厳選の上、資料の量と質の確保に努める。							
3-2	大活字本の貸出冊数	2,275冊	3,028冊	2,917冊	3,300冊	2,587冊	78.4%	徐々に増加傾向にある。令和5年度実績値の約1割増を目標値とする。資料の充実とともに、大活字本コーナーの分かりやすい表示やPRに努め、高齢の方や利用に障害のある方への図書館サービスの充実を目指す。
指標の説明	大活字本の年間貸出冊数							
評価	2年連続で減少している。電子図書館における電子書籍では、文字のサイズを利用者自身で調整でき、読み上げ機能付きの資料も多数所蔵しているため、大活字本を必要とする利用者を対象に電子書籍の利用についても促進していきたい。							
3-3	外国語資料の所蔵冊数	11,028冊	11,208冊	11,662冊	12,000冊	11,503冊	95.9%	令和5年度の目標値を継続する。徐々に増加してはいるが、資料の収蔵スペースが限界に近い。一定以上の水準を維持し、多言語サービスの充実を図る。
指標の説明	英語、中国語、韓国語をはじめとする外国語資料(児童書及び一般書)の所蔵冊数							
評価	令和6年度は令和5年度と比べてやや減少した。所蔵スペースは限界に近いため、厳選の上、引き続き資料の量と質の確保に努める。つくば市は、外国人居住者の割合が全国平均よりも高く、今後も外国人居住者数は増加すると思われる。							
3-4	外国語資料の貸出冊数	10,858冊	11,206冊	11,611冊	12,000冊	10,596冊	88.3%	令和5年度の目標値を継続する。外国語資料コーナーの配架や外国語による掲示等の充実に努め、外国語資料の貸出増を図る。
指標の説明	英語、中国語、韓国語をはじめとする外国語資料(児童書及び一般書)の年間貸出冊数							
評価	年々増加傾向にあったが、令和6年度は令和5年度と比べて減少した。個人貸出点数全体が減少しており、外国語資料に関しても同様に減少していると言える。今後も外国語資料の充実に努めるとともに、外国語資料を活用したイベント等を企画するなどして、利用増を図りたい。							
3-5	点字資料の所蔵点数	238点	246点	251点	270点	261点	96.7%	点訳資料の作成及び収集に努め、所蔵点数増を図り、図書館資料の利用に障害のある方への図書館サービスの充実を目指す。
指標の説明	中央図書館のボランティアが作成した点字資料と購入した点字資料の所蔵点数							
評価	年々増加している。引き続き、点訳ボランティアによる点字資料の作成を継続的に支援するとともに、計画的に点字資料を購入することでサービスの充実を図りたい。							

令和6年度指標に対する実績評価

4 地域支援サービスに関する指標（3項目）

No.	目 標 指 標	参考実績値			目 標 値	令和6年度 実績値	達成度	目 標 値 の 設 定 理 由
		令和3年度	令和4年度	令和5年度				
4-1	自動車図書館利用人数	9,677人	12,316人	13,841人	14,000人	11,287人	80.6%	令和5年度の目標値を継続する。自動車図書館ステーションの見直しや蔵書の充実を図り、適切な周期の運行に努め、図書館サービスの充実を目指す。
指標の 説明	自動車図書館(3台)の年間貸出人数							
評価	令和6年度も新たなステーションの見直し等、市内全域への図書館サービスの提供を図ってきたが、目標達成には至らなかった。地域が広いつくば市において自動車図書館は重要な役割を担っており、引き続きステーションの見直しや自動車図書館の情報発信やイベントへの出展を企画していき、更なるサービスの拡充を図る。							
4-2	自動車図書館貸出冊数	37,244冊	43,337冊	47,583冊	53,000冊	38,457冊	72.6%	令和5年度実績値の約1割増を目標値とする。自動車図書館資料の充実に努め、利用者のニーズに応じた本を積載して各ステーションを巡回することで、貸出冊数の増を図る。
指標の 説明	自動車図書館(3台)の年間貸出冊数							
評価	目標値の達成には至らなかったが、引き続き、利用者層をニーズを反映させた図書の購入、積載図書の選書を行うなど資料の充実を図り、自動車図書館での貸出増加を図る。							
4-3	相互貸借貸出冊数	1,862冊	1,743冊	1,420冊	1,500冊	1,466冊	97.7%	近年、1,500冊前後で推移している。令和5年度の目標値を継続する。利用者が求める資料で中央図書館が所蔵していない資料について、他の図書館と連携して利用者に提供する。
指標の 説明	図書館が所蔵していない資料で、利用者の希望を受けて他市等の図書館から借受して貸出を行った資料冊数							
評価	令和5年度までは減少傾向にあったが、令和6年度はやや増加した。今後も、利用者が希望する資料にアクセスできるよう、サービスの周知を図るとともに、潜在的ニーズも掘り起こせるよう情報提供をしていきたい。							

5 課題解決支援、ボランティアとの連携、利用者の情報活用能力に関する指標（4項目）

No.	目 標 指 標	参考実績値			目 標 値	令和6年度 実績値	達成度	目 標 値 の 設 定 理 由
		令和3年度	令和4年度	令和5年度				
5-1	レファレンス受付件数	1,440件	1,458件	1,446件	1,500件	1,474件	98.3%	近年、1,400件前後で推移している。利用者の調査研究や調べ学習を支援し、図書館サービスの充実を目指す。
指標の 説明	中央図書館のカウンター、電話、電子メール等で受付をしたレファレンス件数							
評価	近年は1,450件前後で推移しており、令和5年度と比較してわずかに増加しているが、目標値には達していない。サービスの周知を図るとともに、研修への参加や職場内研修の時間を確保し、職員のレファレンス能力の向上を図ることで図書館サービスの充実に努めたい。							
5-2	ボランティア登録者数	166人	156人	151人	160人	164人	102.5%	例年160人程度を定員とし、募集を締め切っている。多様なボランティア活動の機会や場所を提供し、ボランティアの協力を得ることで図書館サービスの充実を目指す。
指標の 説明	中央図書館の各ボランティアに登録した人数(複数のボランティアに登録している場合も1人として計算)							
評価	目標を達成した。令和6年度図書館ボランティアは、令和6年3月1日に募集を開始し、応募多数のため5月上旬で募集を締め切った。引き続き、ボランティアの皆様と共に図書館サービスの充実を図っていく。							

令和6年度指標に対する実績評価

No.	目 標 指 標	参考実績値			目標値	令和6年度 実績値	達成度	目標値の設定理由
		令和3年度	令和4年度	令和5年度				
5-3	ボランティア活動者数	1,557人	1,906人	1,918人	2,000人	2,116人	105.8%	令和5年度実績値の約1割増を目標値とする。多様なボランティア活動の機会や場所を提供し、ボランティアの協力を得ることで図書館サービスの充実を目指す。
指標の 説明	中央図書館の各ボランティア活動に参加した延人数							
評価	例年より大幅に増加し、目標値を達成している。令和5年度と比較すると、児童サービス、修理、地域文化、地域資料ボランティアの活動者数が増加している。特に、児童サービスは100人以上増加しており、児童図書の配架などの日頃の活動に対し積極的に取り組んでいただけている。							
5-4	ボランティア等による おはなし会等開催回数	104回	152回	192回	160回	183回	114.4%	おはなしボランティアによるおはなし会(月9回)、図書館職員によるおはなし会(月4回、8月なし)、地域文化ボランティアによるブックトーク等(月2回)、おはなしボランティアによる人形劇・パネルシアター(年2回)、その他様々な形式のおはなし会を随時開催し、読書推進を図る。
指標の 説明	図書館ボランティア・図書館職員が実施したおはなし会・ブックトーク・パネルシアター等の開催回数(学校訪問ブックトーク事業については積算しない。)							
評価	令和6年度は、概ね年度当初の予定通りにおはなし会を実施し、目標値の達成に至った。今後も定期的なおはなし会を実施していく、図書館の利用促進を図る。また、令和6年度は、イベント「ライブラリーピクニック」や「ぬいぐるみたちのおとまり会」におけるおはなし会も実施できた。							

6 学校図書館等支援に関する指標 (6項目)

No.	目 標 指 標	参考実績値			目標値	令和6年度 実績値	達成度	目標値の設定理由
		令和3年度	令和4年度	令和5年度				
6-1	団体貸出利用回数	120回	126回	100回	200回	107回	53.5%	令和5年度の目標を継続し、新型コロナウイルス感染症流行前の水準(令和元年度:約250回)に戻すことを目標とする。
指標の 説明	団体貸出を利用した団体の延利用回数							
評価	令和5年度からわずかに増加したものの、目標には達しなかった。読み聞かせ用の本等を個人のカードで借りていく利用者も一定数いることから、団体貸出サービスの周知を進めるとともに、利用しやすい環境を整えていく。							
6-2	団体貸出図書冊数	7,212冊	8,187冊	8,703冊	10,000冊	8,376冊	83.8%	新型コロナウイルス感染症流行前の水準(令和元年度:約10,000冊)に戻すことを目標とする。
指標の 説明	保育所・幼稚園・小学校・児童クラブ・福祉施設等の団体に対しての図書の貸出冊数(1回につき1団体300冊まで3か月間貸出可能)							
評価	近年増加傾向にあったが、令和6年度は減少した。利用回数は増加したことから、1回あたりの貸出冊数が減少したと考えられる。魅力ある図書を揃えとともに、選書、貸出、返却のしやすい環境作りを進めていく。							
6-3	社会科見学等の 図書館見学受入回数	4回	6回	5回	10回	6回	60.0%	読書活動の普及を図るため、受入体制の充実に努め、読書活動の推進を目指す。
指標の 説明	保育所・幼稚園・小学校・義務教育学校・特別支援学校等による図書館見学の受入回数							
評価	実施可能な場合には積極的に受入れを行っているが、依頼が少なく、目標には達しなかった。引き続き、積極的に受入れを行っていくことで図書館を身近に感じてもらい、幼児、児童の読書推進を図りたい。							
6-4	職場体験学習 受入人数	0人	16人	25人	40人	37人	92.5%	読書活動の普及を図るため、受入体制の充実に努め、読書活動の推進を目指す。
指標の 説明	8年生(中学2年生)を対象とした職場体験の場として、中央図書館で図書館業務の体験学習を受け入れた生徒の人数							
評価	令和3年度までは新型コロナウイルス感染症の流行により職場体験の受入れを中止していたが、令和4年度から実施を再開している。令和6年度も目標値の達成には至らなかったが、前年度より受入人数は大幅に増加した。今後も積極的に受け入れることで図書館を身近に感じてもらい、中学生の読書推進を図りたい。							

令和6年度指標に対する実績評価

No.	目 標 指 標	参考実績値			目 標 値	令和6年度 実績値	達成度	目 標 値 の 設 定 理 由
		令和3年度	令和4年度	令和5年度				
6-5	ジュニア図書館員 受入人数	0人	0人	56人	75人	42人	56.0%	読書活動の普及を図るため、受入体制の充実に努め、読書活動の向上を目指す。
指標の 説明	5年生から6年生を対象にした体験型事業「ジュニア図書館員」に参加した児童の人数							
評価	令和4年度まで新型コロナウイルス感染症の流行により実施を見送っていたが、令和5年度から内容を一新して再開し、2～3回程度のイベントとして実施している。参加人数を増加させるためには、定員及び回数を増加させる必要があるが、現状対応することは困難である。							
6-6	学校司書等の 研修参加人数	49人	51人	51人	50人	50人	100.0%	学校図書館との連携を強化し、学校司書の研修等を支援することで、読書活動の推進を目指す。 (令和6年度学校数:50校、学校司書人数:56人)
指標の 説明	学校司書等を対象に実施される研修の参加人数							
評価	令和6年度は対面で、初任者のみの内容と受講者全体を分けた内容で実施した。現在は学校司書を対象に1回のみ実施しているが、今後は回数や対象の設定を拡大させることで、さらなる連携に努めたい。							

7 市民満足度に関する指標（1項目）

No.	目 標 指 標	参考実績値			目 標 値	令和6年度 実績値	達成度	目 標 値 の 設 定 理 由
		令和3年度	令和4年度	令和5年度				
7-1	利用満足度調査の 満足度	78%	90%	83%	80%以上	83%	103.9%	図書館利用者の満足度を把握し、利用者の声をサービスに反映させることで図書館運営の向上を目指す。令和5年度までは中央図書館の利用者のみを調査対象としていたが、令和6年度以降、調査対象を広げて実施予定。
指標の 説明	図書館利用者に対して図書館サービスについての満足度調査を実施し、「満足」「やや満足」と回答した人の割合							
評価	令和5年度までは、調査対象を中央図書館利用者のみとしていたが、令和6年度からは分室や配本所（予約本受取窓口）、閲覧所（学校開放事業を実施している小学校図書室）の利用者も対象とした。満足度は令和5年度から変動なく、目標値を達成している。図書館の改修に向けた利用者の意見や要望、その他自由記入欄への意見や要望をもとに改善できるところから取り組んでいき、今後も利用者目線での図書館サービス向上を目指していきたい。							